

女夫石遺跡発掘調査速報

No.47

ちょっと遅くなりましたが、12月9日開催した見学会の様子です。当日はなんと、雨・雨・雨……。最悪です。でもきっと見学に来てくださる方がいるはずと思い、開催しました。なんとあの雨の中、総勢50名の方が見学にきてくれました！これも、見学会の準備を手伝ってくれた、発掘現場の皆さんのおかげです。



冷たい雨の降るなか、傘をさしながら女夫石遺跡の見学をしている皆さんです。もうすぐ発掘調査も終わりです。埋まってしまうと二度と見ることの出来ない巨石を見学しています！それにしても本当に寒いな～！靴もドロでベチャベチャだ！



縄文時代中期の約五百年間に作られた竪穴住居跡を見学している皆さんです。あまりにも重なり合すぎていて、一つ一つの竪穴住居の形が分からないくらいです。

住まいの空間と廃棄空間が意識されていたことがわかるね！

沢リ：今日は見学会だけど、朝から雨だね。

マキ：それでも、見学会を開催するみたいだよ！発掘調査も終盤だから、今回を除くと皆さんに見てもらえる機会がなくなっちゃうから開催するんだってさ！

沢リ：雨の中、シートをはがすのも大変だね！発掘を手伝っている皆さんに感謝だね！

マキ：東京からわざわざ見学に来た人もいるみたいだよ。

沢リ：発掘された70点以上の土偶の一部も一緒に見ることもできたね。土偶をまとめて眺めると壮観だね。それにしても調査面積のわりに本当にたくさんの土偶が発掘されたね。

マキ：見学者の皆さんもビックリしているね。(つづ)



うわー、たくさん土偶が並んでいるよ！一つの遺跡でこんなにたくさんの土偶がでるなんてすごいね。遺跡全体を発掘したらもっとたくさん発掘されるよね。縄文時代中期の最初の頃に作られた土偶も出土しているんだってさ！その頃の土器の破片は今のところ確認されていないみたいだよ！一体、女夫石縄文人はいつからこの遺跡に住み始めたんだろうね？

まだまだ、解決しなきゃいけないことが山積みみたいだね！

女夫石遺跡現地見学会資料 - 韮崎市穂坂町宮久保字女夫石 - 2006.12.09 (Sat)

女夫石遺跡は「めおといしいせき」と呼びます。韮崎市穂坂町宮久保字女夫石という場所にある遺跡なので、この名前がつけました。女夫石遺跡の北側には唐沢（権現沢）が流れています。その唐沢を挟んで対岸に地名の由来になっている女夫石があります。また、この地域は古代には「穂坂牧」があったことで著名です。

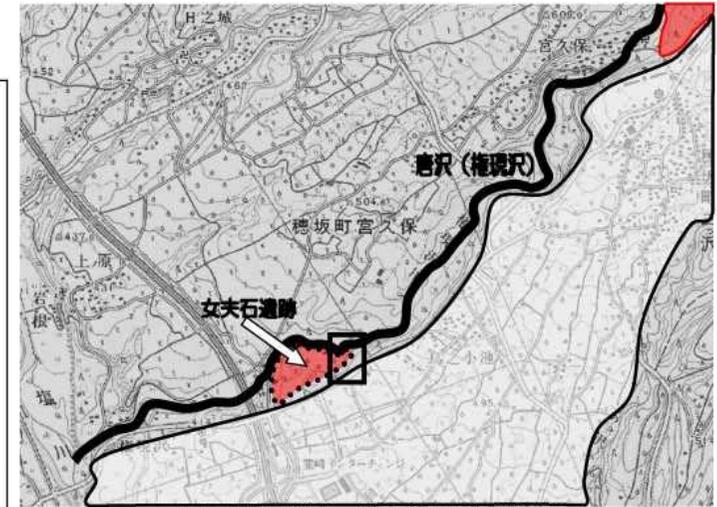
女夫石遺跡は縄文時代と平安時代の遺跡であることが分かっています。今回は縄文時代及び平安時代の集落跡を公開します。縄文時代中期（4500年前～4000年前）、土器型式の名前でいうと勝坂式と曾利式と呼ばれる土器が作られた頃です。平安時代は10～11世紀にかけての頃です。

調査では、女夫石縄文人の住まいが作られた地区（居住域）、土器や石器などを廃棄した地区（廃棄帯・祭祀場1）と大きな石を立てたり組み合わせた地区（配石遺構・祭祀場2）と一緒に確認されました。居住域と廃棄帯の空間配置が一般的な状況とは違うということが特徴といえます。なぜ、居住域よりも上方に土器や石器を廃棄しているのか？このような遺跡が他にあるのか？これから検討しなければならないことは山積みですが、居住域と廃棄帯との関係を調べるための好資料であるといえます。また、廃棄帯の中には巨大な裂け目のある岩があり、石棒（せきぼう）3点、土偶（どく）約70点、ミニチュア土器4点など、縄文時代の精神世界を反映しているかもしれない遺物が集中傾向にあります。これが偶然なのか、縄文人の意向した行為の結果なのかは慎重に検討していかなければなりません。興味もたれることではあります。

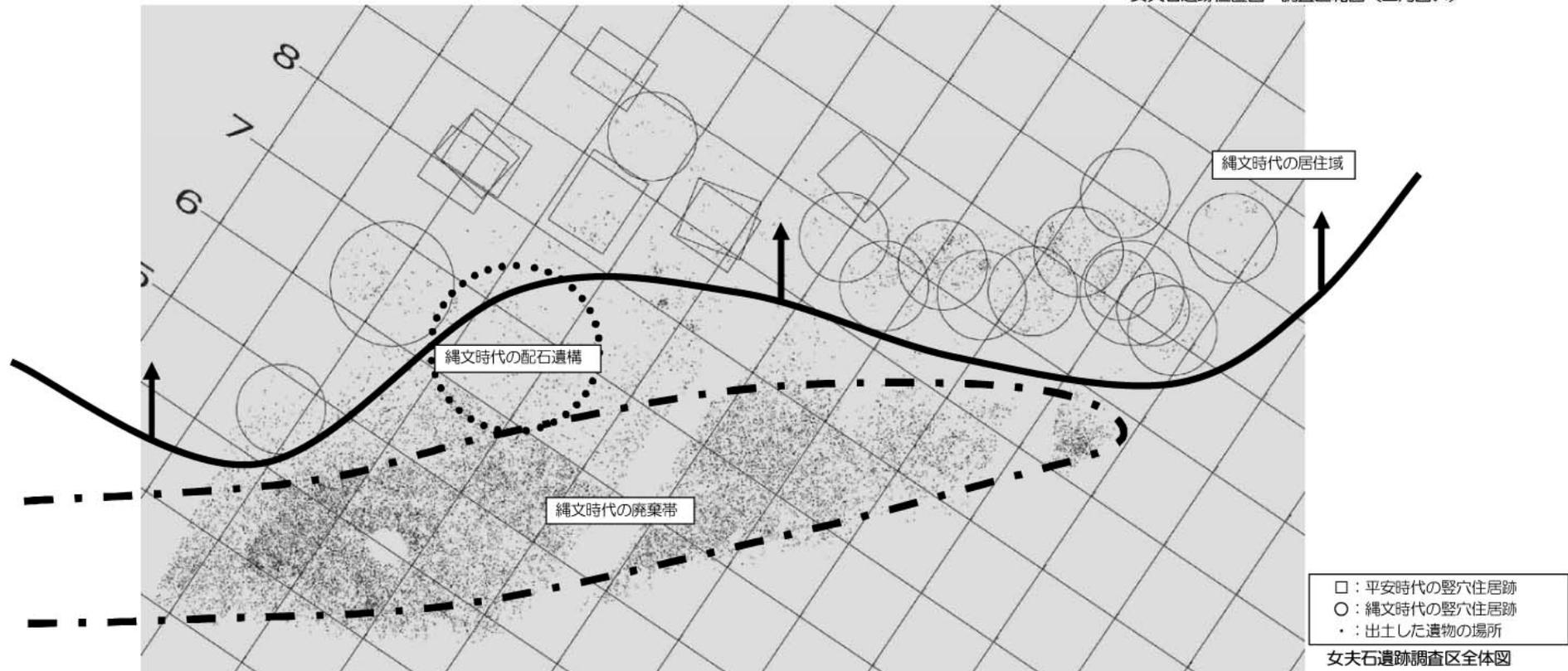
さらに約五百年間という間に、巨石を中心に行われたであろう廃棄行為 or 祭祀行為は初めの頃と終わりの頃とでは様子が違っていったようです。その違いは現地説明会の中でお話ししますので聞き漏らさないでください。

今後は、配石遺構の石をはずし下部に施設があるのかないのかを確認します。

これからの発掘調査の様子やこれまでの様子は韮崎市のホームページでカラーで見ることができます。韮崎市のホームページにアクセスして、新着情報の中の「女夫石遺跡調査速報更新中！」をクリックしてみてください。



女夫石遺跡位置図・調査区範囲（四角囲い）



- ：平安時代の竪穴住居跡
- ：縄文時代の竪穴住居跡
- ・：出土した遺物の場所

女夫石遺跡調査区全体図



上の写真は廃棄帯を調査し始めた頃の様子です。縄文人がこの場所に最期に廃棄行為を行なった最後が、縄文時代中期後半の葎利Ⅴ式（そりごしき）と呼ばれる土器が作られる時であったことが分かりました。

大きな岩は少しだけ頭を地面から出ているような状況だったようです。出土する土器は破片が中心です。

右の写真は最初にこの場所に廃棄行為を行った頃のもので、縄文時代中期中葉の藤内式（とうないしき）と呼ばれる土器が作られる頃でした。

破片も発掘されますが、ヒビが入ってはいますが、完全な形の物がやや多く見られます。



左の写真は、配石遺構です。大きな石を立てたり、積み上げたりしたものです。縄文時代中期中葉から後半（井戸尻式から葎利Ⅳ式の間）につくられたものです。

この配石を取り除いた下に何か埋められているかもしれませんが、これから調査を進めていきます。

大きな石はとても重くて、これを組み合わせたりするのはとても重労働なはず。それでもこの配石を作らなければならない理由があったはずなのです。皆さんはその理由をどのように考えますか？

風林火山の世界 新府城跡発掘調査見学会

風林火山といえば武田氏、その武田氏の最後の城「新府城」の発掘調査見学会を開催します。武田氏最後の将「勝頼」は12月24日に新府城へ入城しました。翌年の3月3日には自ら火を懸けて落城します。たった3ヶ月足らずの期間ですが、そこには武田勝頼の思いが詰まっています。その思いを発掘調査から見つけてみませんか？

昨年に引き続き、搦手周辺の調査です。整備に向けて新たな発見と検討材料ができています。皆さんの目で考えてみませんか？

開催日：平成18年12月16日（土）
17日（日）

説明を開始する時間 午前10時・午後1時00分 ～説明は約1時間30分です～

集合場所：新府城跡 搦手周辺（下記参照）

* 駐車場から集合場所へは徒歩5～10分かかります。県道を渡る際には車に注意してください。

* 雨天中止（少雨決行）とします。

* 当日は、これまでの調査概要等をまとめたスライドショーもご覧頂く予定です。



ここが、集合場所です。駐車場からの道はすでに堀（ほり）の中です。出構（でがまえ）を見ることも忘れないように！

荏崎市教育委員会 教育課 生涯学習担当
0551-22-1111（内269）